

(様式1)

平成29年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 110	提案機関名 (一社)神奈川県園芸協会(県果樹組合連合会)
<b>要望問題名</b> ブドウの赤系の有望品種の選定について	
<b>要望問題の内容</b> 【背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等)】 消費者ニーズに対応した品種を栽培し直売での有利販売を進めるため、黒系は「藤稔」、緑系は「シャインマスカット」の導入が進んでいる。赤系品種については、新品種が開発されるものの、夏季高温等で安定して品種特有の着色に至らない状況であり、有望品種の選定をお願いしたい。併せて、既存の赤系有望品種おける着色向上技術の確立をお願いしたい。	
<b>解決希望年限</b>	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
<b>対応を希望する研究機関名</b>	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター    ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
<b>備考</b>	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

<b>回答機関名</b>	農業技術センター	<b>担当部所</b>	生産技術部果樹花き研究課
<b>対応区分</b>	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中    ③継続検討    ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
<b>試験研究課題名</b> (①、②、④の場合)	新たななかなかわ特産品の開発 新たな作物・品種の探索による特産品の開発 果樹の地域系統適応性試験		
<b>対応の内容等</b>	ブドウの果色はアントシアンの濃度に大きく依存し、その発現量は、色素の構成要素である糖の十分な果粒への流入や適当な夜温が必要です。しかしながら昨今の温暖化により着色不良の房が増えていることは現実です。現在実施しているブドウ第13回地域系統適応性検定試験の中で‘安芸クイーン’系統の「安芸津28号」を検討しています。これまでの調査結果から「安芸津28号」の果皮色は鮮やかな赤色であるが、大房にすると果房内の着色が不揃いであることから、今年度は1房当りの着粒数を抑えた栽培法での着色程度の検討を行っています。 また、着色向上を目的とした環状剥皮に取り組んだところ‘安芸クイーン’では安定した効果が認められましたが、他の品種では効果が安定せず、他県でも同様の結果となっています。着色向上に関しては今後も情報収集をすすめ、適宜、情報提供します。		
<b>解決予定年限</b>	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内		
<b>備考</b>			